

第1回 研修会 テーマ：「看護という生き方」

～看護師は生きたように看護する～

講師：宮古 あずさ 先生



日時：2024年5月21日（火曜日）14時30分～16時30分

参加者：会員54名 非会員3名

場所：アンピールホテル大阪

<講義>

今回は、宮子あずさ先生のあゆみと、看護師としての体験を通して、様々な角度からとらえた看護の本質についてお話をうかがいました。先生の明るさとポジティブな姿勢人間性がにじみ出るお話は、看護の現状を包み隠さず軽快な語り口で表現者としてもご活躍されている宮子先生ならではのご講演となりました。

その中で、先生が臨床場面で経験した優先順位に悩んだ事例から、新人の時の自分と経験を積んできた今、その時の経験を振り返り、「今ならこうケアしたい」とお話されていました。看護ケアという中から看護の対象である人の病気には苦痛が伴い、ケアをする上で様々な状況にあり、序列をつけることがとても難しいことを改めて考えさせられました。

もう一つの事例では、常にケアを求めている事例についてお話がありました。先生が経験した患者のフットケアを実践した場では、「自分が行うフットケアだけに焦点をあて、ケアしているつもりになっていた」「看護師は、患者の全体像をとらえ、目標を設定し、その人にどうなってほしいのかをチームで話し合う。患者の不安に焦点を当て、ケアをする。さらに、立派な患者であることを求めない。苦痛は人間性を変える。<もとからこんな人>と決めつけない」という実践の中から出てきた先生の言葉は看護の本質を表していました。

看護学生時代や大学生時代のお話、親の介護、猫のもふこちゃんのお話など次から次へと出てくるお話は先生の人となり伝わり、まさに「看護という生き方～看護師は生きたように看護する～」を実感しました。

さいごに、先生が壁を乗り越え、看護師を続けることになったことから「物事を深く洞察するほど、単純に<人のせい>にしくなくなる。人間への好奇心と学ぶことなしに看護師は続けられなかった」と改めて、興味・関心が意欲につながることを気づかせていただいた講演となりました。先生の貴重な体験から考えた看護についてのお話は、自分自身の生き方も振り返る機会になりました。

